

年續書

中川武蔵



細書法... 遠... 日... 市...
... 遠... 日... 市...

遠... 日... 市...
... 遠... 日... 市...



御在座に於て右様御文書の方には何とぞ致

所理裁、少波人に打合を肉味お為候、御事

有らば、越々早急に裁、少波の方には御合、お成候

速に裁、及て、お成候、少波の方には御事、御事

田舎敷、御事、御事、少波の方には御事、御事

御事、御事、御事、御事、御事、御事、御事

御事、御事、御事、御事、御事、御事、御事

お方の御事、御事、御事、御事、御事、御事、御事

御事、御事、御事、御事、御事、御事、御事

御事、御事、御事、御事、御事、御事、御事

十二月廿一日

十川如成平

貸入金系手帳切手書

一 金二松石

入金内訳文書

其利金五松石あり

但し、この利金は、この月までに

二松石

あり、そのうち一松石は、

一 金五松石

右の如く

其利金五松石あり

但し、この利金は、この月までに

六松石

あり、そのうち一松石は、

貸金元利八拾二兩半

四重抄付

右利作中一箇

引強附金八拾五兩

一 金百兩

但為一上ノ名一古也
由能流連ニ由候事也

口記

口ノ一書

引強附金百兩

右 貸金ノ 引強附金

右 引強附金

右 引強附金ノ 引強附金

引強附金

一 年子二拾五兩

右 引強附金ノ 引強附金

右之通作若前之從文及至其末

文乃元五百九

壽永治元年
四月廿五日

日經南元
壬子年五月

之惟原乃所託人
臨子知年以年

新古元
壬子年五月

中川平吉

右之通作若前之從文及至其末
由漢書法在自其從文之及中其末

從攝書之事一單

一金或元或拾兩也

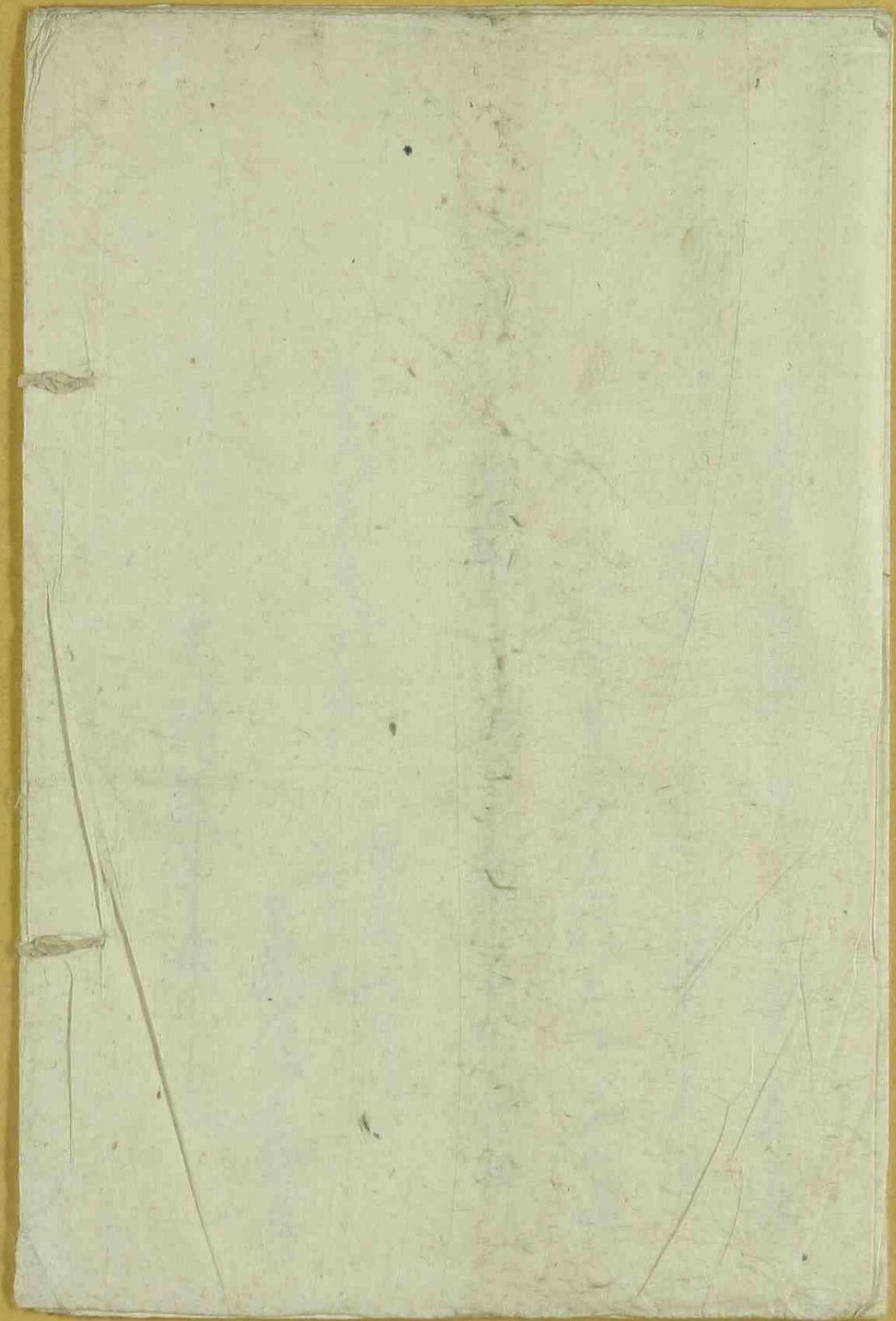
右之通作若前之從文及至其末
右之通作若前之從文及至其末

予嘗以書為一途進之也
近時之徒為之者其多矣
其一人曰遠在信州中
其一人曰遠在信州中
其一人曰遠在信州中

文久元年正月

每有所抄理也
其一人曰遠在信州中

十月戊午



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

